

## 科学技術の潮流

JST研究開発戦略センター

台頭する中国系

コンピューターは、IC  
キテウチャード

## システムの心臓部で

A】を例に、ICT分野での日本人の貢献について一考を加えた。採択論文62本のうち日本人は米国大学所属の筆頭著者1人と共同著者として1人の計2人のみである。

あるコンピューターを  
低消費電力かつ高速に  
実現する設計手法を研

択率が17%という、アーキテクチャー関連のトップ学会の一つである。その一方で、ISCAでは中国人研究者の存在が目立ち、ほとん

なぜここで日本人の参加を増やすべきか。分野の潮流の把握は得てしてこのような場の参加から始まるからである。聴講だけでは

コンピューター　アーキテクチャ　日本人の存在感示せ



科学技術振興機構(JST)  
研究開発戦略センター上席

木村  
康則

場を見渡すと、日本の存在感がほとんどない感じられる。今回は、2019年6月に米国アリゾナ州フェニックスで開催された「コンピューターアーキテクチャーに関する国際シンポジウム」(ISC

科学技術振興機構（JST）  
研究開発戦略センター上席フェロー 木村 康則

分野の潮流を映す鏡  
撮影)

も、各セッションの参加者数や議論の内容から、注目されているテーマが分かる。今回のISCAにおいても、招待講演のテーマ（ニューラルネットワークの歴史と将来）、セッション構成の特徴（「量子子」や「AI」を使ったヨン構成の新設）など、参考になることは多い。また論文の採択を決定するプログラム委員会

2018 ACM A.M. Turing Award are Yoshua Bengio of the University of Montreal, Geoffrey Hinton of Google, and Yann LeCun of New York University.



に入れば、投稿論文の傾向から今後数年の技術動向が分かる。現状は残念ながら、プログラミング委員74人のうち日本人は1人にすぎない。

学会は最新技術の発表の場であるとともに、産学交流の場である。そこにもつと日本人の貢献が欲しい。学会で発表される成果に期待を寄せるからこそ、スポンサー企業も関与し、分野全体の発展に貢献する。次回のISCAは来年、3年ぶりに欧洲で開催される。この州で開催されるのである。まずは論文投稿から始め、各種プロジェクトの成果が国際会議で活発に発表されることに期待したい。（金曜日に掲載）

# FCRC 2019

## Turing Lecture

June 23, 5:15pm

Geoffrey Hinton and Yann LeCun  
will deliver the Turing Lecture

The recipients of the 2018 ACM A.M. Turing Award are Yoshua Bengio of the University of Montreal, Geoffrey Hinton of Google, and Yann LeCun of New York University.



学会の招待講演は分野の潮流を映す鏡  
(ISCAにて著者撮影)

方野の潮流を映す鏡  
撮影)

も、各セッションの参加者数や議論の内容から、注目されているテーマが分かる。今回のISCAにしても、招待講演のテーマ（ユーラルネットワークの歴史と将来）、セッション構成の特徴（「量子構成の特徴」、「AI」を使つた「AI」や「AI」を使った「AI」改善」の新設）など、参考になることは多い。

また論文の採択を決定するプログラム委員会は、残念ながら、プログラミング委員74人のうち日本人は1人すぎない。

学会は最新技術の発表の場であるとともに、産学交流の場である。

傾向から今後数年の技術動向が分かる。現状は残念ながら、プログラミング委員74人のうち日本人は1人すぎない。

れば、投稿論文の発表が欲しい。学会で発表される成果に期待を寄せるからこそスピノンサード企業も関与し、分野全体の発展に貢献する。次回のISCAは来年、3年ぶりに欧洲で開催される。このことである。まずは論文投稿から始め、各種プロジェクトの成果が国際会議で活発に発表されることに期待したい。（金曜日に掲載）